



特 別 講 演



特別講演 台頭する北東アジア：1990年代の成果と課題

ロシア連邦国家評議会幹部会員

極東ザバイカル協会会長

ハバロフスク地方知事

ヴィクトル・イシャーエフ

1990年代の特徴は激しいグローバルな構造変化であった。これを引き起こしたのは、ソビエト連邦の崩壊、社会主義体制の崩壊、この体制の跡地における多くの新しい国家の成立、「冷戦」の終焉、そして、米国が唯一の超大国となったことである。多くの人々は冷戦の解消の為にソビエト連邦の崩壊を期待していた。しかしながら、全世界的対立の解消と二極対立の世界から一極集中の世界への移行によって、世界が完全に安全になったわけでもない。それは米国の国際ルールを無視したユーゴスラビアをめぐる出来事からも判る。つい最近まで繁栄していた有力な国家が廃虚と化してしまったのである。

この一極世界で明らかになったことは、過酷な軍事、政治、金融経済により強い国が弱い国へ圧力をかけていく動きである。また国際金融機関を主権国家への内政干渉として利用する手段も広く使われるようになった。国際投機筋が資金の流れを操作したことでグローバルな地域レベルの金融恐慌、社会混乱を引き起こし、国家の破綻を招く事態をも引き起こしたが、アジア太平洋地域はこの10年間の政治激動によるグローバルな軍事、政治紛争に巻き込まれることなく、経済開発や多国間協力で専念できた。

この地域における相対的に平穏な国際情勢は、太平洋地域の各国経済にとって平穏に航海することを保証するものではなかった。この地域の経済的多様性、増大する役割によって、この地域の国家はリーダーシップをめぐり互いに烈しく競い合うことになる。経済成長率において中国の台頭は東アジアの新興国を凌ぐものである。

アジア太平洋地域経済にとって本当の試練は、グローバル化であり全世界経済への依存の高まりである。90年代におけるアジア太平洋地域の経済発展の結果が示しているように、グローバル化はチャンスを与えるものであるが、その実現は各国がどれだけ巧みに適応できるかによるところが大きい。1997～1998年のアジア金融危機が示しているように、グローバル化の結果、勝組と負組が生まれたのである。

90年代におけるアジア太平洋地域の重要な成果のひとつは、現在、ロシアを含む21の国と地域が参加しているアジア太平洋経済協力会議(APEC)の創設である。アジア太平

洋地域を欧州連合と比較することはまだ早計だが、多国間経済協力にとって最も重要な一歩がすでに踏み出されたのである。APECの創設はグローバル化の挑戦に対するこの地域の回答であった。このフォーラムはアジア太平洋地域の首脳が毎年顔を合わせ、重要な経済問題を討議することを可能にしたのである。

現在、APEC枠内において貿易、投資、経済・技術協力を実施する上での地域的なルールが作成され始めているが、APECは多様な経済的関心を調整することに役立っている。ワーキンググループやセッションで生み出された考えは、経済発展に貢献している。APEC枠内のこれらの活動が北東アジアにおける経済発展と地域協力に貢献することを望む。

90年代は、北東アジアにとって世界規模の変化により引き起こされた肯定的な政治的・経済的变化の時期であった。最大の進展は、北東アジア諸国間の関係正常化である。現在の北東アジアの国際情勢は比較的安定しており、この地域の各国間関係においては肯定的な変化の傾向が見られる。

この地域における国際政治情勢に重要な影響を与えたのは、口中関係の改善であった。90年代にロシアと中国は、関係の正常化から広範な問題での集中的多面的協力・相互関係樹立へと至る道をたどった。重要な道標となったのが、1996年4月のエリツィン ロシア連邦大統領と江沢民 中国国家主席による戦略的パートナーシップに関する共同宣言の調印である。その後1997年11月に、口中国境線東部国境画定作業終了宣言が調印された。2000年7月に行われたブーチン大統領の中国公式訪問も、両国の対等な信頼に基づくパートナーシップを21世紀の戦略的相互関係に向けて促進していくものである。

中国の李鵬首相を団長とする代表国の訪口もあった。こうした二国間会合の結果、多くの分野において相互協力協定が結ばれ、エネルギー、天然ガスプロジェクト、石油産業で協力協定が締結された。

90年代にはまた朝鮮半島情勢の改善があった。このプロセスの端緒となったのは、1990年のソビエト連邦と韓国間、1992年の中国と韓国間における外交関係の樹立である。こ

れに続く各国家間の貿易・経済関係やその他の関係の進展は、朝鮮半島のみならず、北東アジアの全地域における国際政治状況を改善するための確固とした基礎となった。

特に留意すべきは、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の核プログラム断念と引き換えに北朝鮮のエネルギー問題を解決させる為、国際機構KEDO（朝鮮半島エネルギー開発機構）が創設されたことである。このプロジェクトの資金調達は韓国、日本、米国、それにEUが引き受けた。KEDOの設立は、安全保障問題と同様に純粋に経済問題の解決をも促進することを目的とする、北東アジア地域での事実上初めての多国間協力の事例である。

この間、南北の停戦体制を平和体制に転換する為、いわゆる「2+2方式」（北朝鮮、韓国、米国、中国）による4者会談の枠組みが創設された。まだ目立った進展はないが、ロシア及び日本がこの組織を補うことが重要である。

90年代末には南北の関係においても一定の進展が見られた。これは金大中韓国大統領の努力によって成し遂げられた。この金大統領の新しい政策が北朝鮮指導部の肯定的反応を呼びおこしたことは極めて重要なことである。このことが2000年6月のピョンヤンでの両首脳歴史的会談を可能としたのである。この会談の一つの成果は、かつて南北を結んでいた鉄道の復旧工プログラム開始であった。

90年代は口日関係の進展において生産的な時代であった。1993年のエリツィン大統領の訪日は「東京宣言」という成果をあげ、両国指導者の積極的な政治的接触過程の出発点となる。1997年のクラスノヤルスク、1998年の川奈での会談は、口日間の多面的な経済的協力を取り決めたエリツィン・橋本プラン作成の基礎となり、21世紀における両国間の建設的パートナーシップを前提とするブーチン・森プランとなる。1994年の貿易・経済協力に関する口日政府間委員会の設立は、口日間の経済的相互関係の新しい形態を模索する端緒となった。

口日関係の改善を促す重要な要因は、ロシア極東地域の州や地方と日本の各県との間で行われるようになった地域レベルの広範な接触である。これらの地域の自治体首長の会議、地方議会や社会団体の代表者の会合、青少年やスポーツ団体の交流、技術専門家の接触など、これらすべてが強固な相互交流の基盤を形成したのである。

この時期には日中間、日韓間の関係も活発かつ成功裏に進展した。中韓の間に活発な関係が確立された一方、北朝鮮も中国は常に主要な政治的・経済的パートナーである。モンゴル指導部の北東アジアの全国家との密接な関係を発展させようとする努力にも注目すべきである。

90年代は、北東アジア各国の地域間交流の開始と発展の

時期でもあった。90年代はじめには、同地域諸国の地方自治体の指導部間で、主に2地域間の相互接触が行われた。1993年10月には島根県の発案により日本、ロシア、中国、韓国の地方自治体首長の最初の会合が開かれ、その後、兵庫県、ハバロフスク地方で開催された。これにより地域を一つにまとめ、地域間の協力を調整するのに役立つ組織を創る必要があることが明らかになった。北東アジア地域自治体会議の成果として、1996年9月に慶州市で北東アジア地域自治体連合の設立が宣言されたのである。

この連合の創設はこの地域にとって大きな出来事である。各地域の代表者が初めて恒常的に互いに交流し、地域レベルでの協力と相互関係の問題を討議できるようになった。北東アジア諸国の地域レベルでの交流は、すでに国家間関係の基盤を補完する重要な構成要素となっている。21世紀は世界の舞台に地域が登場し大きな役割を演じるようになるだろう。地域間の協力活動が国家レベル並になっていることがこの連合の活動で明らかになった。地域発展コンセプトは地域統合の可能性を示唆している。それは経済の刺激となるだろう。1998年にはモンゴルが北東アジア地域自治体連合に正式に加盟している。

ハバロフスク地方は1995年に北朝鮮を地域協力を招き入れることに賛意を表する発言を行っているが、1ヶ月前に北朝鮮の指導部から、2002年秋にハバロフスクで開催が予定されている北東アジア地域自治体連合の定例会議に地方行政の代表の参加が可能であるとの書簡を受取った。

90年代における北東アジア諸国の経済発展の全般的傾向をみると、特徴として様々な異なる傾向が存在している。これは北東アジア地域諸国の経済体制の本質的相違などから生じており当然ではある。

中国経済は急速な成長を遂げ、10年間でその貿易額を3.4倍に増やし、世界貿易の中心的な存在に躍進している。他方、経済成長の急進は社会経済、環境、その他の問題を引き起こし、中国指導者の改革がより求められている。中国の将来はこれらの改革の成功いかんにかかっており、北東アジアの運命もそれにより決まる。

ロシア連邦は社会主義経済から市場経済への移行の途上にあり、開放的経済の構築と最近の国際分業の現実への適応という困難な問題に直面している。ロシアは国民生活のあらゆる局面において、特に経済面で混迷した10年間を経てきた。ロシア経済の深刻な試練は1998年の金融危機であった。

1998年末からロシアは、ルーブルの切下げの結果、輸出産業部門の成長を刺激し、燃料エネルギー資源の世界市場の好況により経済成長の段階に入っている。2000年の経済

成長は7%に達し、国民所得は9.4%増大した。ロシア極東においては工業製品の生産量は6.5%増大した。発電量が5%、石油とガスの生産量がそれぞれ75%と2.7%、加工用木材と製材の生産量がそれぞれ30%と34%増大し、製紙（ダンボールも含む）セメントその他の種類の製品の生産量も増大したのである。

しかし、ロシア全体および個々の地域の経済成長は安定性に欠け、周期的に大きく変動することを特徴としたままでもある。それには国家の主導的な役割の下、社会経済問題に携わるすべての関係者が目的意識を持つことで成長を持続させ安定性を高めなければならない。このことを認識した上でプーチン大統領は「2010年までの国家発展戦略報告書」の作成を私に命じた。私たちのグループの課題は、この先数年間のロシアの戦略的発展に向けたコンセプトを作ることであった。それはロシアの発展を目的として現在予見される責務を果たす為、大統領が決定を下す際のインストルメントとなるものである。

北朝鮮は90年代初め以降、経済的危機にあり、最近の北朝鮮指導部及び政府による南北二国間関係改善及び外国との経済関係発展のため措置は、北朝鮮がこの地域における経済協力プロセスに積極的に参入することを期待させるものである。

日本経済の90年代は、戦後経験したことのない景気後退を体験した。これは循環的な問題と構造的な問題が複雑に絡み合った結果引き起こされたものである。1991～1995年の年平均経済成長率は1.2%にとどまり、1998年には70年以降では初めてGDPの2.5%低下が記録された。日本の失業率は現在4%に達し戦後最高レベルである。1992年から1999年度までに、総額1兆2,000億ドルにも達する国費を注ぎ込むことによって景気を浮揚させようとしているが、現在までに明確な成果は現れてない。

韓国経済は90年代前半に高度な成長を遂げた。この時、韓国では市場原理機能を拡大する一連の重要な措置とられた。特に外国貿易・外国からの投資・通貨の自由化が終了したのである。しかしながら、韓国経済はアジア金融危機の否定的な影響を避けることができなかった。国の通貨の交換レートが一挙に低落し、主として短期の投機的資金が大量に引き上げられたため株式市場は暴落した。これらの諸条件の中で韓国政府は金融および産業セクター、雇用の分野において積極的な一連の改革を実現し、さらに行政機関のあらゆるレベルでラディカルな再編に取り組んだ。わずか2年の間に国は危機を脱し、580億ドルの債務をIMFに返済し、金外貨準備高を500億ドルにまで増やし、1999～2000年度には8%程度の経済成長を達成したのである。

このように、90年代における北東アジア諸国の経済発展は、かなりの困難にありながらも多国間の協力関係をさらに深化させるためのベースとなる発展潜在力を保持したことを示している。しかしながら、北東アジアにおける貿易経済の相互関係のレベルは未発達であることも示している。

私たちはロシア極東地方にあって、このような協力関係のために最も好適なベースとなりうるのはシベリアとロシア極東地方のエネルギー資源開発の大規模プロジェクトであると考えられる。この資源開発と中国、朝鮮半島、日本への石油・ガスパイプライン、超高压送電線の敷設、さらにはアジア太平洋地域の他の諸国への電力およびエネルギー資源の供給が、エネルギー共同体の基礎を創出できるのである。パイプラインと送電線により結ばれた相互依存は、経済のみならず政治においても信頼関係を強めるだろう。この目的に適うのが北東アジア地域の輸送・情報通信インフラ整備のためのプロジェクトである。その中でもインターネット取引が急速に発展しており、北東アジアに統一の取れたインターネット空間構築し、取引の法整備が必要となってきている。

北東アジア経済を発展させるためには、出入国管理、関税手続き、工業・農業基準、貿易手続きなどを簡素化し制度を統一させる必要がある。そして、北東アジア諸国は自由経済特区を開発し、関税同盟を結び、外国投資の保護システムの整備と保険の発展を図ることに努力を向けるべきである。

地域システムに参入する国はいずれも何らかの優位点を持っている。そのおかげで局地圏共同体の中で一定の「ニッチ(隙間)」を占められ、地域内において生産要素が不均等にしか存在していないという現状にあって、経済的な利益にあずかることができるのである。この立場からすれば、北東アジアにおける多国間経済グループの形成に利点があることは明白である。この利点は次の通りである。

1. 資源、資本、労働力などの潜在性を発揮できるような比較優位の利用が可能となる。
2. 協力を拡大することにより諸国の社会、経済的発展の緊密化を図れる。
3. 販売市場を拡大することにより輸出を伸ばしその構造を改善できる。
4. 共同体を形成することにより国家的な経済発展プログラムの実行が可能となる。
5. 越境インフラプロジェクトなどの投資を促進させる。
6. 人的資本、教育、健康や技術向上における投資が可能になる。

各国各地域はそれぞれに地域共同体の枠内で経済的統合と建設的相互交流を進めるべきである。これら各国の政界、実業界が北東アジア地域の反映を確実なものにするような意欲を表明し、実現することが重要である。

この10年間は、均衡のとれた地域経済発展や環境、その他複雑な問題について相互理解を模索する各種の地域フォーラムには、大きな意義があるということを示した時期でもあった。知的交流には大きな意義があり、今日明らかな

のは、経済は頭脳の力にますます多く依存し、この種の活動に注入される努力が最大の配当にあずかることができるのである。この点において、この経済会議における交流など、私たちの交流によってなされている地域協力の発展に対する貢献については、いくら評価してもしすぎるということはない。

[抄訳ERINA]

Special Address

Emerging Northeast Asia: Progress and Problems of the 1990's

ISHAEV, Victor I.

Member of the Presidium of State Council, Russian Federation

Chairman, Interregional Association of Economic Coordination "Far East and Zabaikalie"

Governor of Khabarovsk Territory, RF

The 1990's was characterized by dynamic structural changes on a global level, as a result of the collapse of the Soviet Union and socialism, which led to the birth of many new nations on the rubble of the collapse. The United States remained as the only superpower. Many people seemed to look forward to the collapse of the Soviet Union, because it would mean the end of the Cold War. However, the resolution of the global standoff and the transition from a bipolar world to a single-polar world which have not yet made the world sufficiently safe. This was clearly demonstrated when the U.S. wielded its military power, in ignorance of the rules of international society, in its advance into Yugoslavia. Yugoslavia used to be a prosperous country with much international influence, but it was reduced to ruins.

Also, in this uni-polar world, we can clearly see instances of military, political and financial pressure, where strong countries pressurize the weaker nations. International financial institutions interfere with the sovereign rights of nations. International speculators try to manipulate the flow of funds, so that on a global and regional basis, recessions have developed and society has been placed in turmoil and pushed to the brink of bankruptcy. In the 1990's, the countries of the Asia-Pacific region were fortunately not involved in global, military and political disputes, and were able to benefit from the relative stability of this period.

The relatively peaceful international situation in the region did not guarantee, however, a quiet run for the economies of the Pacific Rim. The economic diversity of the region and its growing importance in the world forced the countries of the region to compete for leadership. In terms of economic growth rates, China surpassed the new industrialized economies of East Asia.

For the Asia-Pacific economy, the true test was globalization, and the increasing interdependence of economies. As shown in the economic development in the Asia-Pacific in the 1990's, globalization provided

opportunities for development, and the realization depended on the adaptability of the nations. The Asian Financial Crisis of 1997-1998 created winners and losers as a result of globalization.

In the Asia-Pacific region, the major accomplishment of the 1990's was the creation of APEC. It is still too early to compare the Asia-Pacific with unified Europe. However, I think that a major first step toward multilateral cooperation has been taken. The establishment of APEC is the regional states' answer to the challenges of globalization. This forum is where the members of APEC will gather together once a year to discuss important economic issues.

Within the APEC framework, the regional principles for trade and investment activities and economic and technical cooperation have been formulated. APEC helps to harmonize diverse economic interests. Its working groups and sessions generate new ideas, contributing to the economic development of the region. It is hoped that these activities within APEC could also contribute to economic development and subregional cooperation in Northeast Asia.

In the 1990's, Northeast Asia experienced positive political and economic changes that were partly facilitated by global developments. The most important development was the normalization of relations among the countries of Northeast Asia. At present, the political situation is relatively stable and there are signs of positive dynamics in subregional relations, both bilateral and multilateral.

The improvement in Russian-Chinese relations has had a crucial impact on the political situation in the region. In the 1990's, Russia and China embarked on a course that brought them further ahead in the establishment of intensive cooperation on many fronts and mutual interaction on an extensive range of issues. The signing of the Joint Declaration on Strategic Partnership by President Boris Yeltsin and Chairman Jiang Zemin in April 1996 became a milestone on this path. In November

1997, the Declaration on the Conclusion of Work for the Demarcation of the Eastern Part of the Russian-Chinese Border was signed. The July 2000 official visit of President Vladimir Putin to China was yet another major step towards the development of an equal partnership, mutual trust and coordination of vital national interests.

A number of high-ranking Chinese delegations visited Russia, including the one led by the Parliamentary Chairman, Li Peng. These bilateral meetings have led to a range of agreements, including those covering cooperation in the energy field, natural gas projects and the petroleum sector.

In the 1990 s, the somewhat volatile situation on the Korean Peninsula improved. This process was set in motion by the establishment of diplomatic relations between the Soviet Union and the ROK in 1990, and between China and the ROK in 1992. Subsequently, the development of the trade and economic relationship has helped to build a strong basis for a favorable international and political situation, and has contributed positively to the region as a whole.

In this context, mention should be made of the Korean Peninsula Energy Development Organization (KEDO), an organization created in order to resolve the energy problems of the DPRK in exchange for a commitment to stop its nuclear program. The ROK, Japan, and the United States, as well as the European Union, undertook the financing of this project. The creation of this international organization became, in effect, the first example of multilateral cooperation in Northeast Asia aimed both at the resolution of political and security problems and of purely economic issues.

During these years, the "Four Party Framework" was created to replace the armistice on the Korean Peninsula with a peace treaty. It is based on the "two-plus-two" formula (the United States, the ROK, the DPRK and China). It hasn't made noticeable progress yet, but Russia and Japan could join this process as influential stakeholders to ensure progress.

At the end of the 1990 s, there were significant developments in inter-Korean relations achieved due to the efforts of President Kim Dae-Jung. It is important that his new approach was matched with a positive response from the leadership of the DPRK, leading to the historic meeting in Pyongyang in June of 2000. One of the outcomes of this meeting is a program to restore the railway that once linked North and South Korea.

The decade of the 1990 s was quite a productive period in the development of Russian-Japanese relations. The official visit of President Boris Yeltsin to Tokyo in 1993 resulted in the signing of the Tokyo Declaration, followed by intensive political contacts between leaders. The meetings in Krasnoyarsk in 1997 and Kawana in 1998 laid the foundation for the Yeltsin-Hashimoto Plan, which envisaged diverse economic cooperation between Japan and Russia. The most recent development in this field is the Putin-Mori plan, which envisions a constructive partnership between the two countries in the 21st Century. Also, the joint Russia-Japan Inter-governmental Commission on Economic and Trade Cooperation, established in 1994, prepared the ground for the search for

new forms of economic interaction between Russia and Japan.

A major contributing factor to the improvement in Russian-Japanese relations was the opening of broad contacts on a regional level between the districts and provinces of Far Eastern Russia and the Japanese prefectures. The conferences of the heads of administrations of these territories, meetings of the representatives of the legislative assemblies and public entities, youth and sports exchanges, and contacts among technical experts, have all come together to consolidate a sufficiently sound infrastructure for bilateral relations.

During this period, we have seen active and successful development in the relationships between Japan and China and between Japan and the ROK. Active links have been established between China and the ROK. For the DPRK, China has always been a major political and economic partner. The Mongolian leadership has also made great efforts to foster close relations with all countries of Northeast Asia.

The decade of the 1990 s was also a period in which the local regions of the Northeast Asian countries developed direct relations. In the early 1990 s, these consisted of essentially bilateral contacts between leaders of the local administrations. In October 1993, following an initiative from Shimane Prefecture, the first meeting of the heads of local governments of Japan, Russia, China and the ROK, took place. The following meetings were held in Hyogo Prefecture and Khabarovsk. It became clear that an organization was needed that would facilitate cooperation among these territories. In September 1996, at the meeting of the heads of local governments of Northeast Asia, held in the city of Kyungju City (North Kyungsang Province), the Association of North East Asia Regional Governments (ANEARG) was created.

The creation of this association was indeed an important event in the history of our region. For the first time, the representatives of local regions have been given the opportunity to discuss prospects for cooperation in a multilateral setting. These regional-level contacts among the countries of Northeast Asia have already become an important factor supplementing inter-governmental relations. The characteristics of the 21st century will be the advent of the role to be played by regional administrations and the fact that they are playing a direct role. This has become clear in the manner of ANEARG. The concept of regional development suggested the possibility of integration. As a result, we shall be able to stimulate economies that are lagging behind. Mongolia was accepted as a formal member of ANEARG in 1998.

In 1995, Khabarovskiy Territory expressed that it was favorably disposed toward the accession of the DPRK to the framework of regional cooperation. About a month ago, I received a letter from the DPRK, informing me that a representative of the administration of one of the provinces would take part in the ANEARG session scheduled to take place in Khabarovsk in the autumn of 2002.

Let us now consider the economic aspects. In describing the general trends in the economic development of the countries of Northeast Asia during the 1990 s, I should note that this process has been

characterized by conflicting trends and differences in the economic systems, which could be seen as only natural.

The economy of China has shown a rapid growth rate, and in only a decade, its foreign trade has expanded 3.4-fold. It is becoming the center of world trade. On the other hand, high rates of economic growth entail a complex mix of socio-economic, environmental and other problems, requiring more drastic reforms from the Chinese leadership. The future of the country, and to a certain extent the destiny of Northeast Asia, depends on how successful these reforms are.

The Russian Federation, in its transition to a market economy, has encountered serious problems in adapting to the realities of international markets and the division of labor. The 1990's was a very difficult decade for Russia in all aspects of the nation's life, especially in the economic sphere. A serious trial for the Russian economy was the 1998 financial crisis, which was closely tied to the Asian economic crisis.

At the end of 1998, the Russian economy resumed growth, driven by the export-oriented sectors, as a result of the devaluation of the ruble and the favorable situation on the world's energy markets. In the year 2000, economic growth in Russia reached 7%, and income grew by 9.4%. Industrial output in Far East Russia rose by 6.5% in volume terms. Also up were electric power generation (by 5%), petroleum output (by 75%), gas output (by 2.7%), commercial lumber production (by 30%), sawn timber (by 34%), carton and paper, cement and other products.

However, economic growth remains unstable both in Russia as a whole and in individual regions, and the economy has a strongly pronounced cyclical nature. Growth should be maintained and stabilized by the carefully balanced efforts of all players in the economic process, with the state playing an important role. Recognizing this, President Vladimir Putin asked me to prepare "The Report on a Development Strategy for the Period Up to the Year 2010." Our group proposed a conceptual framework for the strategic development of the Russian economy for the near future. This report may serve as an important tool when President makes decisions designed to achieve the current and prospective goals on the basis of clearly set targets for Russia's development.

The DPRK experienced a severe economic crisis in the 1990's. The recent efforts of its leadership to improve inter-Korean relations give us hope that the DPRK will be able to develop closer economic relations with other countries, contributing to subregional economic cooperation in Northeast Asia.

Throughout the decade of the 1990's, the Japanese economy experienced a recession that was unprecedented in her entire postwar history. This was due to a complex combination of cyclical and structural problems. Thus, whereas in the early part of the decade, from 1991-1995, the average annual rate of economic growth had been only 1.2%, the economy registered an absolute drop in Japan's GDP by 2.5% for the first time since the 1970's. The unemployment rate in Japan has today reached a level of 4%, the highest figure in the entire postwar period. The endless attempts of the government to breathe fresh life

into the economy by increasing government expenditure by an amount totaling US\$1.2 trillion for the period from 1992 through to 1999 have yet to produce tangible results.

The economy of the ROK in the first half of the 1990's enjoyed high rates of growth. During this period, a series of important measures designed to expand the sphere of action of market forces were implemented. In particular, moves were made to liberalize external trade, foreign investments, and also monetary legislation. Yet, the ROK economy was not able to escape the negative impact of the Asian Financial Crisis. The country suffered a sharp drop in the exchange rate of the Korean currency and a crash on the stock market, fueled mainly by a mass exodus of short-term speculative capital funds from the country. Under these conditions, the government of the ROK carried through a number of aggressive reforms in the financial and industrial sectors and in the area of employment. It also resolved to implement some radical reforms to its administrative machinery at all levels. In only two years, the country came out of the crisis and repaid an IMF loan of US\$58 billion. It also beefed up its gold reserves to US\$50 billion and achieved an 8% economic growth rate in 1999-2000.

In short, despite economic difficulties, Northeast Asia retains the potential for development, which promises intensified cooperation among the countries of this area. However, the current level of economic and trade interaction in Northeast Asia far from matches this existing potential.

We, in the Far East of the Russian Federation, have concluded that the most appropriate sphere of such cooperation might be the implementation of large-scale projects for the development of the Siberian and Far Eastern energy resources. The development of these natural resources with the subsequent installation of pipelines for natural gas and crude oil transportation, as well as high-voltage power transmission lines to China, the Korean Peninsula and Japan, could lay the foundation for an energy community in Northeast Asia. It is my vision that such mutual interest, consolidated by cross-border pipelines and power transmission lines, could provide a good basis for strengthening mutual trust, not only in the economic, but also the political domains. Infrastructure projects of transportation and telecommunication network could be appropriate for these purposes. Internet trading is becoming ever more active, and it would be necessary for us to establish internet space which is common in Northeast Asia, so relevant laws should be established in order to facilitate internet trading.

In Northeast Asia, we need to have common systems and institutions. For example, regarding immigration, tariffs, customs, standards for industry and agriculture, procedures of trade would have to be simplified in order to promote economic development. At the same time, Northeast Asia will have to develop free economic zones, form a customs union, and provide protection and insurance system for foreign investment.

Each constituent country has its own advantages, enabling it to occupy a certain "niche" in the subregional community. So, even if there is an unequal distribution of production factors, the countries will still be able to enjoy

economic benefits. We believe that there shall be merits in establishing a multilateral economic group.

We believe these advantages can be summed up as follows:

1. Realization of comparative advantages, utilizing resources, capital and labor potential.
2. Expanded cooperation for closer development in social and economic areas.
3. Enlarged markets for export, and facilitate restructuring.
4. Forming common front and facilitate implementation of the national economic development program.
5. Investment promotion, including cross-border infrastructure project.
6. Investment in human capital, education, health and technological advancement.

Each country and territory would determine its own

need in terms of economic integration and constructive interaction within the framework of the regional community. The important factor is that the political and business communities of the countries concerned should demonstrate a will and determination to bring prosperity to the Northeast Asian subregion.

The last decade of the 20th Century has also shown how important the various regional forums are in searching for a mutual understanding concerning the issues of balanced economic development and environments in the region. Great importance must be attached to intellectual exchange. The economy is much more dependent on intellectual capabilities, and the greatest yields can be obtained from efforts made in this type of activity. In this context, it is difficult to overestimate the contribution of exchanges in this Economic Conference for the development of regional cooperation.

[Abridged translation by ERINA]

